

## 第2章 参加校の活動内容とその結果

### 第1節 活動の概要

#### 2-1-1. 初参加校と参加経験校の学校数

令和7年(2025)年度の初参加校と参加経験校の学校数を表2-1-1に示す。

本年度はそれぞれの校種において初参加校が一定数見られる一方で、複数回の参加実績を持つ学校も広く確認されており、知財教育に対する取組が継続的に定着しつつあることがうかがえる。

表2-1-1 令和7年度参加校の参加回数（単位：校）

	合計参加校	H23～R3 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業及び R2～R7 知財力開発校支援事業 参加経験					
		R7 初参加校 (通算 1 回)	H23-R6 の うち 1 回 及び R7 参加 (通算 2 回)	H23-R6 の うち 2 回 及び R7 参加 (通算 3 回)	H23-R6 の うち 3 回 及び R7 参加 (通算 4 回)	H23-R6 の うち 4 回 及び R7 参加 (通算 5 回)	H23-R6 の うち 5 回 及び R7 参加 (通算 6 回)
普通	17	7	10				
農業	6	2	3		1		
工業	20	7	2	3	1	1	1
商業	10	5	4				
水産	2	1	1				
家庭	2	1	1				
情報	4	2	1		1		
福祉	2	1	1				
高等専門学校	2	1		1			
合計	65	27	23	4	3	1	1
		H23～R3 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業及び R2～R7 知財力開発校支援事業 参加経験					
		H23-R6 の うち 6 回 及び R7 参加 (通算 7 回)	H23-R6 の うち 7 回 及び R7 参加 (通算 8 回)	H23-R6 の うち 8 回 及び R7 参加 (通算 9 回)	H23-R6 の うち 9 回 及び R7 参加 (通算 10 回)	H23-R6 の うち 10 回 及び R7 参加 (通算 11 回)	
普通							
農業							
工業		1	1		1	2	
商業				1			
水産							
家庭							
情報							
福祉							
高等専門学校							
合計		1	1	1	1	2	

## 2-1-2. 指導対象について

学校種別ごとに指導対象をまとめると、表2-1-2のとおりである。

どの校種でも1年生から3年生まで全学年にわたって広く指導対象としていることが分かる。

表2-1-2 学校種別ごとにみた指導対象

学校種別	1年	2年	3年	4年	5年	課外活動等
普通(17校)	16校	16校	7校	-	-	7校
農業(6校)	4校	6校	6校	-	-	1校
工業(20校)	16校	16校	19校	-	-	8校
商業(10校)	6校	7校	8校	1校	-	2校
水産(2校)	2校	2校	2校	-	-	0校
家庭(2校)	2校	2校	2校	-	-	0校
情報(4校)	2校	2校	4校	-	-	1校
福祉(2校)	1校	1校	2校	-	-	0校
高等専門学校(2校)	2校	2校	2校	2校	2校	0校

## 第2節 参加校における活動内容とその成果

### 2-2-1. 指導法とその成果

採用された指導法と採用数を表2-2-1に、またその成果についてのアンケート結果を図2-2-2に示す。表中の水色の網掛けは全体で50%以上採用されている指導法、赤色の網掛けは全体で30%以下の採用の指導法である。

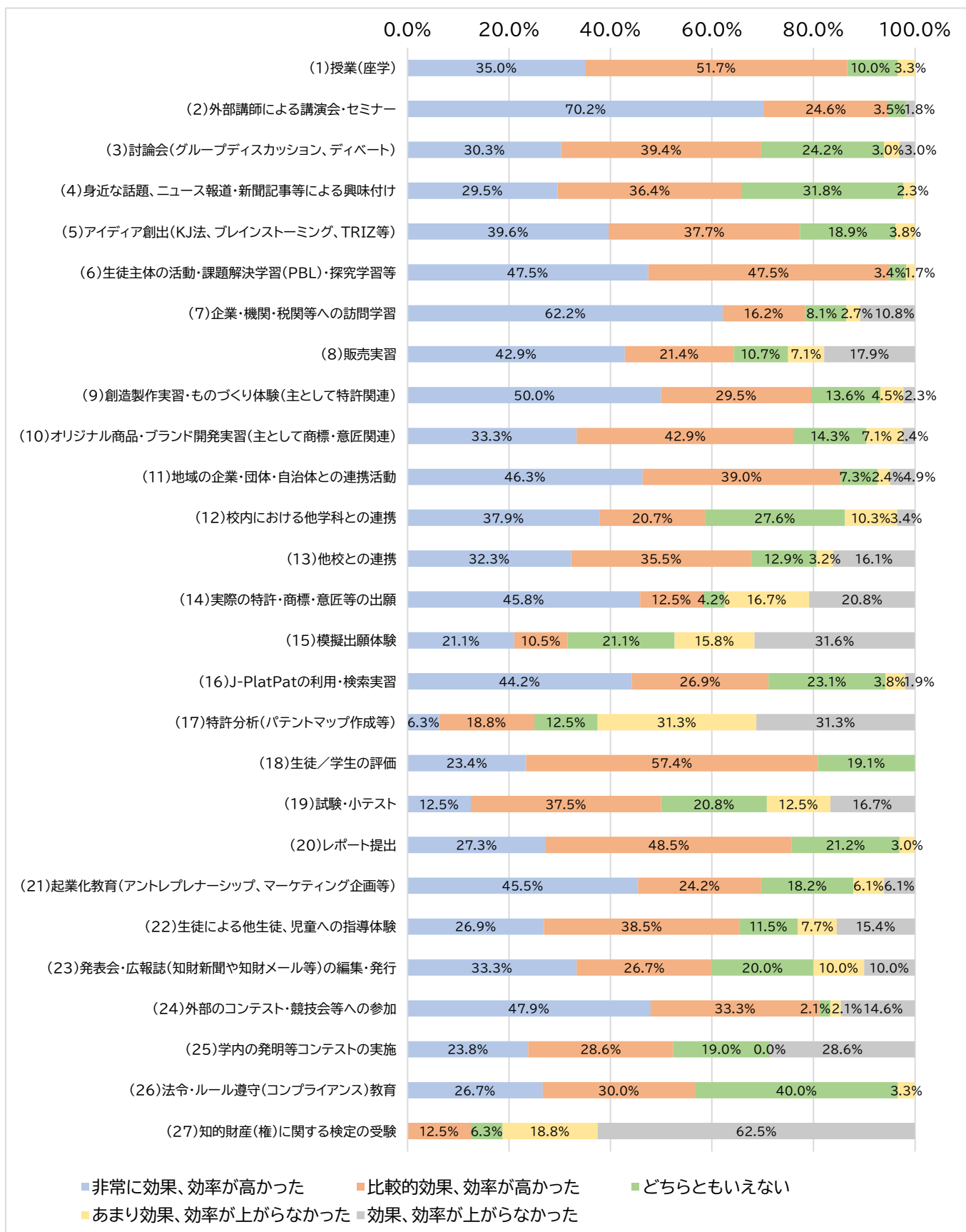
表2-2-1 採用された指導法と採用数(R7年度 アンケートより)(単位:校)

項目	普通 (17校)	農業 (6校)	工業 (20校)	商業 (10校)	水産 (2校)	家庭 (2校)	情報 (4校)	福祉 (2校)	高専 (2校)	全体 (65校)
(1)授業(座学)	16	6	19	9	2	2	3	2	1	60
	94%	100%	95%	90%	100%	100%	75%	100%	50%	92%
(2)外部講師による講演会・セミナー	16	4	18	10	2	2	1	1	2	56
	94%	67%	90%	100%	100%	100%	25%	50%	100%	86%
(3)討論会(グループディスカッション、ディベート)	8	5	10	4	1	2	1	0	2	33
	47%	83%	50%	40%	50%	100%	25%	0%	100%	51%
(4)身近な話題、ニュース報道・新聞記事等による興味付け	8	5	14	8	2	2	3	1	1	44
	47%	83%	70%	80%	100%	100%	75%	50%	50%	68%
(5)アイデアアイデア創出(KJ法、ブレインストーミング、TRIZ等)	13	5	17	9	2	2	3	0	2	53
	76%	83%	85%	90%	100%	100%	75%	0%	100%	82%
(6)生徒主体の活動・課題解決学習(PBL)・探究学習等	15	6	18	9	2	2	4	1	2	59
	88%	100%	90%	90%	100%	100%	100%	50%	100%	91%
(7)企業・機関・税関等への訪問学習	13	5	10	4	2	1	2	0	0	37
	76%	83%	50%	40%	100%	50%	50%	0%	0%	57%
(8)販売実習	8	4	6	5	2	2	1	0	0	28
	47%	67%	30%	50%	100%	100%	25%	0%	0%	43%
(9)創造製作実習・ものづくり体験(主として特許関連)	10	3	16	6	2	2	3	1	1	44
	59%	50%	80%	60%	100%	100%	75%	50%	50%	68%
(10)オリジナル商品・ブランド開発実習(主として商標・意匠関連)	12	6	11	6	2	2	3	0	0	42
	71%	100%	55%	60%	100%	100%	75%	0%	0%	65%
(11)地域の企業・団体・自治体との連携活動	10	4	13	7	2	1	3	1	0	41
	59%	67%	65%	70%	100%	50%	75%	50%	0%	63%
(12)校内における他学科との連携	6	5	12	3	0	1	0	0	2	29
	35%	83%	60%	30%	0%	50%	0%	0%	100%	45%
(13)他校との連携	8	5	10	4	1	2	1	0	0	31
	47%	83%	50%	40%	50%	100%	25%	0%	0%	48%

項目	普通 (17校)	農業 (6校)	工業 (20校)	商業 (10校)	水産 (2校)	家庭 (2校)	情報 (4校)	福祉 (2校)	高専 (2校)	全体 (65校)
(14)実際の特許・商標・意匠等の出願	7	2	11	2	1	1	0	0	0	24
	41%	33%	55%	20%	50%	50%	0%	0%	0%	37%
(15)模擬出願体験	5	3	7	2	1	1	0	0	0	19
	29%	50%	35%	20%	50%	50%	0%	0%	0%	29%
(16)J-PlatPat の利用・検索実習	11	6	19	10	2	1	2	0	1	52
	65%	100%	95%	100%	100%	50%	50%	0%	50%	80%
(17)特許分析(パテントマップ作成等)	4	2	6	2	1	1	0	0	0	16
	24%	33%	30%	20%	50%	50%	0%	0%	0%	25%
(18)生徒／学生の評価	10	6	16	7	1	2	3	1	1	47
	59%	100%	80%	70%	50%	100%	75%	50%	50%	72%
(19)試験・小テスト	6	3	8	2	2	1	1	1	0	24
	35%	50%	40%	20%	100%	50%	25%	50%	0%	37%
(20)レポート提出	7	3	9	7	2	2	3	0	0	33
	41%	50%	45%	70%	100%	100%	75%	0%	0%	51%
(21)起業家教育(アントレプレナーシップ、マーケティング企画等)	11	4	8	6	1	1	1	0	1	31
	65%	67%	40%	60%	50%	50%	25%	0%	50%	51%
(22)生徒による他生徒、児童への指導体験	7	2	8	3	1	2	2	0	1	26
	41%	33%	40%	30%	50%	100%	50%	0%	50%	40%
(23)発表会・広報誌(知財新聞や知財メール等)の編集・発行	8	5	7	4	2	2	2	0	0	30
	47%	83%	35%	40%	100%	100%	50%	0%	0%	46%
(24)外部のコンテスト・競技会等への参加	13	4	18	6	1	2	1	1	2	48
	76%	67%	90%	60%	50%	100%	25%	50%	100%	74%
(25)学内の発明等コンテストの実施	6	2	9	2	1	1	0	0	0	21
	35%	33%	45%	20%	50%	50%	0%	0%	0%	32%
(26)法令・ルール遵守(コンプライアンス)教育	7	5	10	4	1	1	1	0	1	30
	41%	83%	50%	40%	50%	50%	25%	0%	50%	46%
(27)知的財産(権)に関する検定の受験	4	2	6	1	1	1	0	0	1	16
	24%	33%	30%	10%	50%	50%	0%	0%	50%	25%

図2-2-2 採用された指導法の成果(R7年度 アンケートより)

(注1)小数点第二位で四捨五入しているため、指導方法の各項目の合計は100.0%にならない場合がある。



アンケート結果によれば、よく採用されている方法(全体の50%以上)には、(1)授業(座学)、(2)外部講師による講演会・セミナー、(3)討論会(グループディスカッション、ディベート)、(4)身近な話題、ニュース報道・新聞記事等による興味付け、(5)アイデア創出(KJ法、ブレインストーミング、TRIZ等)、(6)生徒主体の活動・課題解決学習(PBL)・探究学習等、(7)企業・機関・税関等への訪問学習、(9)創造製作実習・ものづくり体験(主として特許関連)、(10)オリジナル商品・ブランド開発実習(主として商標・意匠関連)、(11)地域の企業・団体・自治体との連携活動、(16)J-PlatPatの利用・検索実習、(18)生徒/学生の評価、(20)レポート提出、(21)起業家教育(アントレプレナーシップ、マーケティング企画等)、(24)外部のコンテスト・競技会等への参加等が挙げられている。この結果から、座学から体験・探究・外部連携・創造活動までを組み合わせた、知識のインプットのみならず討論や探究を主とする課題解決型学習やアイデア創出、実習・制作・コンテスト参加体験といった実践的で能動的な学びが広範囲で行われており、生徒の主体性と実践力を高める参加型の知財学習が主流になっていることが読み取れる。このうち、いくつかの取組について、その取組の傾向と具体的な取組内容を述べる。

## (2)外部講師による講演会・セミナー

外部講師による講演会・セミナーも広く行われており、指導効果の評価も高い。その内容として、以下のような例が挙げられる。

- 一般社団法人北海道発明協会、北海道経済産業局、講師 細木萌 弁理士(弁理士法人 IPX 所属)、理研興業(株)代表取締役社長 柴尾幸弘 氏(東海大学付属札幌高等学校)
- ①科目「情報Ⅱ」(普通科3年)講話「知的財産権～松島町と知的財産権～」講師:一般社団法人松島観光協会会長 志賀寧 氏
- ②【情報科・生徒指導部】講話:「情報セキュリティ・モラル研修 ～守ろう知的財産権～」講師:弁理士 日本弁理士会東海会 教育機関支援機構 機構長 伊藤正典 氏
- ③科目「情報Ⅱ」(普通科3年) 講話:「コンテンツ(動画・VR・AR、チャットボット(生成AI)の制作と、それに係わる知的財産権の紹介について」講師:東北工業大学 准教授 八巻俊輔 氏
- ④科目「情報Ⅱ」(普通科3年) 講話:「コンテンツにおけるウェブプログラミング・ウェブデザインと、それに係わる知的財産権の紹介について」講師:宮城大学 事業構想学群 准教授 長崎智宏 氏
- ⑤科目「情報Ⅱ」(普通科3年) 講話:「松島に関わる環境の現状と知的財産権」講師:NPO 法人 環境生態工学研究所 理事 佐々木久雄氏、主任研究員 大谷孝一 氏
- ⑥科目「情報Ⅰ」(普通科1学年)講話:「情報の基礎と知的財産」講師:東京 IT プログラミング&会計専門学校仙台校 菊池貴也 氏
- ⑦科目「情報Ⅰ」(普通科1学年)・課外活動 講話:「松島町の抱える課題を解決する特許と知的財産権」講師:一般社団法人 松島観光協会 会長 志賀寧 氏
- ⑧科目「情報Ⅰ」(普通科1学年) 講話:「松島町の観光と生成AIを活用したチャットボットと知的財産権」講師:松島町産業観光課 主事 小幡華稟 氏
- ⑨科目「情報Ⅱ」(普通科3学年)講話:「SNSを活用したコンテンツ制作と知的財産権」講師:公益財団法人 国際エメックスセンター 総務 大輪のり子 氏、一般社団法人 日本ペップトーク普及協会 認定講師 おやのめぐみ 氏特定非営利活動法人 環境生態工学研究所 主任研究員 大谷孝一 氏、特定非営利活動法人 環境生態工学研究所 研究員 齊藤愛実 氏
- ⑩科目「情報Ⅰ」(普通科1学年)・課外活動 講話:「松島の歴史と産業の知的財産権との関わり」講師:円通院 住職 天野氏、株式会社 利久 営業第一部 五大堂店店長 佐藤誠 氏、みどり会農産加工株式会社 専務 鳥海靖隆 氏 松島町農業 Aile(エール) 只木誠 氏、株式会社松島蒲鉾本舗 企画・営業課 課長 葛西 健太郎 氏 (宮城県松島高等学校)

- 弁理士(知的財産入門)、文具王(アイデア商品開発のヒント)、起業家(アントレパートナーシップ)(東海大学付属市原望洋高等学校)
- シンガポール南洋理工大学の昆虫サイボーグ研究の佐藤教授によるエンジニア視点でのアイデアや知財に関する講義(玉川学園高等部)
- リストにあった明治様をお招きし、特許と商標のご担当者様から出張講義を受けました。基本的な事項の説明についても、具体的な事例を用いて説明して下さったことで、生徒の理解度は高かったと思います。(サレジアン国際学園中学校高等学校)
- ユカイ工学(株)((独行)中小企業基盤整備機構による事業)「アイデア創出・プロトタイプング」、日本弁理士会「パテントコンテスト事前セミナー」(東海大学付属高輪台高等学校・中等部)
- コクヨさんの講演については事例を交えながらの説明でしたので、非常にわかりやすかった。(聖学院中学校高等学校)
- サンコー株式会社による商品開発についての講座、キャノン株式会社による知財関係の仕事の紹介(東海大学付属相模高等学校)
- 横浜弁理士事務所 佐々木先生:知財を題材にした動画を用いた基礎知識の講話(立花学園高等学校)
- 福井大学客員教授・弁理士 樋口人志 氏:知財制度のしくみや弁理士の仕事内容、知財にかかるアイデア発案ワークショップ(探究創造科1年 236 人対象)  
弁理士 丸山明夫 氏:パテントコンテスト応募にかかる出前授業(探究創造科1年美術選択者 66 人対象)  
(福井県立高志高等学校)
- ①5/2:2学年の課題研究で著作権やパテントコンテストをテーマに活動した4名対象;弁理士による講演会(丸山明夫さん)
- ②7/14:1学年全員320名対象;知財入門講演会(INPIT 三重・村上一仁さん)
- ③9/19・11/7:1学年全員320名対象;プレゼン講演会(FM 三重・清田のぞみさん)  
(三重県立津西高等学校)
- 山口大学知的財産センター木村真二講師「世界は知財でできている」(岡山県立岡山芳泉高等学校)
- 【講演①】ディスプレイ株式会社 代表取締役社長 桑原 良弘 様  
内容:ものづくりにおいて必要となる発想法を学び、試作品およびアイデアに対する先行事例の有無について、J-PlatPat などを用いて検証する方法を学んだ。これらの内容を含んだ講演を通じて生徒の発想力を高め、そのアイデアの新規性を調べる客観的な方法を身につけることを目的として実施した。  
【講演②】埼玉工業大学 山路 康文 様  
内容:グッズ製作現場の様子や権利関係等で注意してきたこと、発想したアイデアから知財を意識した上で製品開発を行った経験について講演をしていただいた。  
(広島工業大学高等学校 全日制課程)
- 山口大学 知的財産センター 陳内秀樹先生「知的財産入門講座」  
山口大学国際総合学部 足立勝先生「医療分野の知的財産」  
(野田学園中学・高等学校)
- 鳴門教育大学 准教授 寺島幸生氏「探究における課題設定と先行研究の活用について」、dwarf スタジオ プロデューサー 西山佳菜子 氏「キャラクター作成からその権利について」(徳島市立高等学校)
- 全校生徒対象 コクヨ株式会社・弁理士 黒田智子様 「知的財産権について～生み出す人?真似る人? あなたの未来を変える 知的財産のルール～」、教職員対象 親泊寛昌アドバイザー 「高校生を『想像する側』にする知財教育」  
(長崎総合科学大学附属高等学校)

- つじのか国際商標事務所杉田基子氏、宮城県工業高等学校若松英治氏を招聘した知財学習を実施した(北海道更別農業高等学校)
- 秋田県弁理士会、日本弁理士会(秋田県立大曲農業高等学校)
- ○山口大学研究推進機構知的財産センター 准教授 陳内秀樹 先生:全校集会 生物工学科担当 全校集会:「総合的な探究の時間を活用した地域連携への取組について」  
○宮城県工業高等学校 教諭 若松英治 先生:動物科学科、環境科学科担当(本事業の本校アドバイザー)  
○大阪府立農芸高等学校 首席 烏谷直宏 先生:園芸科学科、森林科学科担当  
○岐阜県立飛騨高山高等学校 教頭 中野輝良 先生:流通科学科、食品科学科担当  
(岐阜県立岐阜農林高等学校)
- 国立大学法人山口大学研究推進機構知的財産センター陳内秀樹准教授・畜産科「知的財産学習」セミナー(熊本県立熊本農業高等学校)
- 依頼先:あきた知的財産事務所 齋藤博子先生 セミナーの内容:特許制度、パテントコンテストについて(秋田県立湯沢翔北高等学校)
- 明倫国際法律事務所 田中雅敏 氏「技術と ICT の世界で、もっと活躍するための「知財」の使い方」(山形県立鶴岡工業高等学校)
- 日本弁理士会:概要説明と検索体験、発想体験ワークショップ(群馬県立前橋工業高等学校)
- INPIT 長野県知財総合支援窓口の支援員の方による知財の基礎知識及び J-Plait 利用講座(長野県佐久平総合技術高等学校)
- 松井特許事務所「パテコン関係」「アイデアだし」「商標権について」「権利移譲について」、セントラル法律事務所「特許で儲けるには」(岐阜県立岐南工業高等学校)
- 三重県産業支援センター(三重県立津工業高等学校)
- 3年生(全) 依頼先 弁理士法人 NT 代表弁理士 中村忠則 様 内容:弁理士から学ぶアイデアを出す方法セミナー  
2年生(全)依頼先 株式会社パソナ日本総務部 西日本BPO第一事業本部 西三荘エリアサービス部にぎわい創出チーム TOMO~NI ロボットプログラミング教室 教室長 金本秀勝 様 内容:発明や知的財産に関する体験型学習  
1年生(全) 依頼先 アドバイザー 茨城県立那珂湊高等学校 教諭 成富雅人 様 内容:知的財産教育に関するセミナー  
(大阪府立東淀工業高等学校)
- 大阪工業大学「知的財産入門」「知的財産の活用」、(株)TCD ロゴデザインに関わる知的財産権 I・II、大阪大学大学院法学研究科・知的基盤総合センター 著作権と私たち I・II(大阪府立工芸高等学校)
- 大阪工業大学:日常生活における「知的財産」とは、日本弁理士協会:知的財産についての基本的な講演(大阪府立堺工科高等学校)
- マツダ株式会社 メカトロニクス講演会:高卒技術者に求められる力と企業の知的財産権に関する活動について(山口県立徳山商工高等学校)
- タダノコアテクセンター、企業講師による鋼材料の溶接技能応用技術習得講習と知財創造セミナー(創造作品製作)(香川県立多度津高等学校)
- 金剛株式会社にて知的財産にはどんな種類があるのか、どうやって守られるのか、どのように活用されているかを話していただいた。(開新高等学校)
- 大阪工業大学大学院・村川教授による「知財基礎演習」、(株)フィールドワークス・古家氏による「ブランディングとデザイン思考」、高宮弁理士による「出願書類作成講座」(熊本県立熊本工業高等学校)
- 科目:工業技術基礎(探究学習)にて、生成 AI 講習会を実施(KCS 大分情報専門学校)(大分県立大分工業高等学校)
- 自動車における先端技術の紹介、アームロボット講習会、先輩による企業説明会(大分県立中津東高等学校)

- ・株式会社明治:講演会、東罐興業株式会社厚木工場:出前授業(鹿児島県立鹿児島工業高等学校)
- ・「デザインをする上での心構え」Plica.netarai 荒井氏、「商標に関する講義」3 回弁理士丸林氏、アドバイザー(宮城県大河原産業高等学校)
- ・国分東北株式会社 株式会社ケーエス・フーズ(宮城県南三陸高等学校)
- ・アドバイザーによる教員対象の後援。INPIT 山形知財総合支援窓口による生徒対象の知的財産に関する説明と商標権登録の相談。(山形県立天童高等学校)
- ・株式会社明治、「企業の事例に学ぶ産業財産権の活用について」(東京都立芝商業高等学校)
- ・知的財産教育学習:(講師)アドバイザーの親泊先生と大高先生(東京都立第五商業高等学校)
- ・大阪市東成区大今里南 6 丁目 1 番 1 号 コクヨ株式会社 リスクマネジメント本部 法務部知的財産ユニット(大阪府立淀商業高等学校)
- ・アドバイザー 那珂湊高校 成富先生/大阪大学 Iprism 准教授 岡本教授 ⇒知的財産講義およびワーク(大阪府立大阪ビジネスフロンティア高等学校)
- ・INPIT 兵庫県知財総合支援窓口:知財の説明・商標の登録方法・商品サービスの分類、海岸通特許事務所 弁理士 是枝洋介 様:実用新案登録と意匠権の申請について(兵庫県立長田商業高等学校)
- ・依頼先:有限会社ホクヨ、有限会社大西陶芸 内容:企業における商品開発過程についての講演(愛媛県立松山商業高等学校)
- ・元但馬水産技術センター主任研究員、アドバイザー(兵庫県立香住高等学校)
- ・身近な知的財産についての講演(アドバイザー)、商標についての講演(株式会社フィールドワーク)(熊本県立天草拓心高等学校(マリン校舎))
- ・濱田事務所:著作権講習会 亀山特許商標事務所:知的財産権講習会(千葉県立佐倉東高等学校)
- ・山口大学知的財産センター 陣内先生による『著作権を知ろう!』スライドを用いたオンラインで、ワークシート『家庭基礎 知的財産の基礎と探究学習への誘い』に記入しながら5クラス(50 分×5)の講演と振り返り小テストを実施(和歌山県立熊野高等学校)
- ・大阪工業大学知的財産学部知的財産学科長杉山典正教授による講演「知的財産制度概要」「知財戦略ワークショップ」(京都府立京都すばる高等学校)
- ・発明協会(東奥学園高等学校)
- ・①「初めての知的財産」講話 講師 INPIT 山形県知財総合支援窓口担当 渋江尚子 氏
- ・②「知的財産の基礎と探究学習」オンライン講話 講師 山口大学大学研究推進機構 知的財産センター 木村真二 氏
- ・③「ブランディングの基本」講座 講師 准認定ファンドレイザー 小口貴幸 氏  
(山形県立鶴岡中央高等学校)
- ・知的財産管理技能検定3級試験対策講座第(たかお IP ワークス)(一関工業高等専門学校)
- ・【キャリアビジョン・キャリアプラン・知的財産を学ぶ講演会】  
開催日程:2025 年 9 月 26 日(金)、2026 年 1 月 14 日(水)それぞれ授業一コマ分(90 分)以内での実施  
対象:2 学年全学科 240 名の参加  
内容:キャリアプラン、アントレプレナーシップ、知財に関する基本的な知識に関して連続性のある内容で指導を行ったことで、これらの内容に対する学生の関心を高めることができた。  
・起業時点では、何か独自のモノやサービスが手元にあるということだが、それらを知的財産で守るという認識の重要性や、キャリアの考え方として「攻めと守りの適切なバランス」についての気づきを促す機会、および、既存カリキュラム内では提供しきれない知識を学ぶ機会を創出した。

・夏季実施の集会では、「先輩に学ぶキャリア講演会」と題し、起業したOB2名と富山高専技術振興会の会員企業の一社（フォーステックさま）から一名を招き、それぞれの企業にまつわる体験談と学生の時の学びがどのように生きているかなどを講演したうえで、学生も交えたクロストークセッションの時間をもった。

・冬季実施の集会では、2025年12月に新採用となったスタートアップ・コーディネーターが、夏季の講演内容との連続性をもたせて、「キャリア形成を知財戦略的視点から考える」という趣旨で講演を実施した。同学年のビジネスプランコンテストでの実績を紹介しながら、新しい独自のアイデアやプロダクト制作をする際には、他者に奪われないための公的な権利の保護をするという、知財戦略的な思考回路・知識体系を備えておく必要があるということを、いくつかの実例を交えて講演し、多角的な物事の捉え方を学ぶ機会とした。（富山高等専門学校）

## (7) 企業・機関・税関等への訪問学習

主な訪問先として、地元企業や大学・研究機関へ訪問している例が多く、各校ともに特許・商標などの知的財産が実際の研究開発や商品づくりでどのように活用されているかを現場で学ぶ取組が中心となっている。また、地元産業や農業分野のブランド化・技術開発を知財の視点で理解する学習も多く見られた。

- ・千葉工業大学、東北工業大学、宮城大学、京セラ株式会社（宮城県松島高等学校）
- ・荏原製作所（藤沢工場）：研究施設・工場見学および知財部の取り組みの紹介、ソニー本社：生徒の研究発表（玉川学園高等部）
- ・ユーグレナ様の先端技術研究所を訪問させていただき、施設を見せていただくだけでなく、ユーグレナ様にとっての特許について具体的なお話いただいた。（サレジアン国際学園中学校高等学校）
- ・丸増園、茶室&工房 Saika-en、JX 金属（株）、東京税関羽田税関支署（東海大学付属高輪台高等学校・中部部）
- ・核融合科学研究所、トヨタ会館、名古屋大学（福井県立高志高等学校）
- ・12/15：1学年国際科学科80名対象：「知財を知るための企業見学会」→貸切バスを使って、地元の知財に関わりのある企業2社（「ヤマモリ株式会社」「太陽化学株式会社」）を一日がかりで訪問し、知財に関する独自の技術（特許取得）やその権利保護などについて企業の担当者の方からご講演頂いた。（三重県立津西高等学校）
- ・内山工業株式会社 赤坂研究所（特許利用事例学習）、季譜の里（商標利用事例学習）（岡山県立岡山芳泉高等学校）
- ・山口大学知的財産センター UBE株式会社：知的財産センターにおいて、研究成果が「保護（権利化）」から「活用（技術移転・社会実装）」へ至る流れと、知財部門の役割を具体的に学ぶため。企業訪問を通して、知財が研究開発・製造・事業活動の各段階でどのように扱われ、競争力や品質・信頼性の確保に結び付いているかを現場で理解するため。講義で得た基礎知識を、実社会の運用と結び付けて理解を深め、生徒の知財への関心と主体的な学び（探究への接続）を促すため。（野田学園中学・高等学校）
- ・東京大学地震研究所・理化学研究所・JAMSTEC・日立システムズ・東京証券取引所（徳島市立高等学校）
- ・三和酒類株式会社 いいちこ日田蒸留所「三和酒類株式会社に学ぶ、企業見学・知財学習セミナー」（長崎総合科学大学附属高等学校）
- ・株式会社石屋製菓主催の学校祭に参加した（北海道更別農業高等学校）
- ・山梨県葡萄研究所、地元農事組合法人、JA、秋田高専との連携。（秋田県立大曲農業高等学校）
- ・農林水産省輸出・国際局知的財産課知的財産戦略班（岐阜県立岐阜農林高等学校）
- ・訪問先：エシカルチーズケーキ専門店 seed、フランシーズ、高島屋泉北店 訪問目的：生徒たちが考案したアイデアレシビを形にするために訪れ、助言や共同制作を行った。（大阪府立農芸高等学校）
- ・大分県農林水産部林業研究部きのこグループ・・・栽培方法で差別化を図りブランド化を目指すための栽培技術調査（大分県立日出総合高等学校）

- カップヌードルミュージアム横浜、横浜税関(秋田県立湯沢翔北高等学校)
- 特許庁、東京税関:知財制度や水際対策について学習する(群馬県立前橋工業高等学校)
- インターステラテクノロジス、大樹町宇宙交流センター、メカトロテックジャパン 2025、名古屋税関(岐阜県立岐阜工業高等学校)
- トヨタ博物館(岐阜県立岐南工業高等学校)
- 株式会社光機械製作所(三重県立津工業高等学校)
- 連携校との協働授業(東淀工業・淀商業)(大阪府立工芸高等学校)
- タダノコアテックセンターへ訪問し、最先端の溶接技術、技能について学習した。(香川県立多度津高等学校)
- 金剛株式会社にて知財に関する講和の後、製品に活用されている特許・意匠とその技術開発に至った経緯などを製品展示場でしていただく(開新高等学校)
- 企業見学・上級学校(短大、4年制大)見学(大分県立中津東高等学校)
- 株式会社カネタ・ツーワン:課題解決学習におけるフィールドワーク(宮城県南三陸高等学校)
- チキンラーメン発明記念館(大阪府立淀商業高等学校)
- 富士電機:知的財産に関わる取組み・知的財産の具体的な活用事例・ビジネスグローバル化を踏まえた国際ルール対応・形成の取組み他  
特許庁①知的財産権制度の概要 ②公報閲覧 ③審判廷見学・記念撮影(兵庫県立長田商業高等学校)
- ニフレル、ハヤブサ、安藤百福発明記念館、角屋食品、産業技術総合研究所 関西センター、沼津港深海水族館(兵庫県立香住高等学校)
- 長崎県庁、かもめ市場、長崎市水産センター(熊本県立天草拓心高等学校(マリン校舎))
- JR 西日本紀伊田辺駅は毎月廃棄傘の譲渡式に訪問、JR 西日本天王寺 MIO は AED シート 24 個納品、よって上富田店へ AED シート納品、いわぐろハートクリニックへ AED シート納品(和歌山県立熊野高等学校)
- Audi 京都南ショールーム・立体プロジェクションマッピング制作について(京都府立京都すばる高等学校)

#### (11)地域の企業・団体・自治体との連携活動

地域の企業や自治体、大学、NPO などの幅広い団体と協働しながら、農業・工業・観光など地元の特色を生かした商品開発やデザイン制作等の取り組みが行われていることが分かる。また、特許・著作権の学習などの知財の専門性を直接扱う活動と、探究学習の一環として地域課題解決に取り組む活動が自然に組み合わせられている点も特徴的と言える。

- 松島町、円通院「円通院紅葉ライトアップ」、株式会社利久、松島直秀こけし製造元 二八屋物産店(宮城県松島高等学校)
- 起業家教育として、株式会社フィルカンパニーから講師派遣(東海大学付属市原望洋高等学校)
- 沖縄久米島町との連携:サンゴの移植活動(玉川学園高等部)
- 単発ではあったが、「小学生向け講座」や「大正大学との連携」を実現することができた。(聖学院中学校高等学校)
- 株式会社茶来未との丹沢大山茶を題材にした地域活性化プロジェクト。松田町と連携したその他様々な活動(立花学園高等学校)
- 2年生の課題研究において、岡三証券、野村證券、日本政策金融公庫、サンユー技研、光機械製作所、カイダ建築事務所、ミエデン、パナック、リクシル、伊勢村田製作所、産業支援センター、津市役所、亀山市役所等、多くの企業・自治体と連携することができたが、知財を強く意識して取り組めた訳ではなかった。(三重県立津西高等学校)
- 連携先:岡山市立南公民館 連携内容:企業について探究し、企業広告を成果として発表(岡山県立岡山芳泉高等学校)
- NPO 法人びざん大学・PRIAMLAB・徳島市民病院・アワガミファクトリー(徳島市立高等学校)
- 帯広畜産大学と連携し、スパルト小麦を用いたあんぱん作りを行った。(北海道更別農業高等学校)

- 秋田県農林水産部、大仙市(秋田県立大曲農業高等学校)
- 連携先:有限会社 NEEDs 訪問目的:生徒たちが考えた成果カードや POP を形にするために共同制作を行った。(大阪府立農芸高等学校)
- どっこいしょニッポン presents 畜産に生きる会議 2025、(株)アクティブラーニング・大阪・関西万博における知的財産学習成果発表会(熊本県立熊本農業高等学校)
- 連携先:湯沢市立稲川中学校 連携内容:リンゴの型の設計・製作(秋田県立湯沢翔北高等学校)
- 鶴岡シルク(株)大和匡輔 氏、クリエイティブディレクター 佐藤成美 氏、デザイナー 奥泉なぎさ 氏:学校オリジナルロゴデザイン制作と、知的財産権についての学習(山形県立鶴岡工業高等学校)
- 株式会社エンドレスアドバンスによる企業活動における知財の活用と製作におけるアドバイス、株式会社ミネバアミツミ製作活動における実践的なアドバイスと知財、特許の活用について(長野県佐久平総合技術高等学校)
- 笠松町と連携したモノづくり教室を実施した。(岐阜県立岐阜工業高等学校)
- 西淀川区役所、公益財団法人校外地域再生センター あおぞら財団主催「西淀川芸術祭 みてアート」参加(大阪府立東淀工業高等学校)
- 大阪府木材連合会主催 講義 木材に関わる知的財産(大阪府立工芸高等学校)
- 田布施小学校、近隣の小学生(山口県立田布施農工高等学校)
- タダノコアテクセンターへ訪問し、最先端の溶接技術、技能について学習した。(香川県立多度津高等学校)
- 株式会社池松機工に年5回出張授業にて技術指導をしていただき、オリジナル作品制作に取り組んだ。(開新高等学校)
- JR九州熊本支社。「九州レイルウェイフェス 2025」にて、生徒が製作した自作自動券売機や発車標を出展。(熊本県立熊本工業高等学校)
- 日本文理大学、山口大学(大分県立鶴崎工業高等学校)
- 地元こども園(大分県立中津東高等学校)
- 行政(大河原町役場)→町制 70 周年記念ロゴ、国分東北株式会社→ゆず缶酎ハイ、ネーミングとデザイン(宮城県大河原産業高等学校)
- 株式会社カネタ・ツワン、khb東日本放送、課題解決学習におけるフィールドワーク(宮城県南三陸高等学校)
- 東北芸術工科大学(山形県立天童高等学校)
- 国立市商工会、立川法人会(東京都立第五商業高等学校)
- 産業能率大学、小田原市(おだわら若者応援コンペティション)、小田原観光協会、小田原箱根伝統寄木協同組合、BYD 株式会社(神奈川県立小田原東高等学校)
- シノブフーズ 新商品開発 上穂川フィールド再生・活用ネットワーク 放置竹林を活用した商品作り(兵庫県立長田商業高等学校)
- 連携先:有限会社ホクヨ、有限会社大西陶芸 内容:新商品の企画・開発(愛媛県立松山商業高等学校)
- 兵庫県水産技術センター、但馬漁協(兵庫県立香住高等学校)
- 天草漁協五和支所、クリナムハウス:原材料の提供、子ども食堂への参加。(熊本県立天草拓心高等学校(マリン校舎))
- 白浜温泉組合様に麦わらストロー1000 本納品、JR きのくに線紀伊田辺駅周辺と忘れ物の傘で持ち主が表れず廃棄処分となった傘の譲渡連携、傘をアップサイクルして製作した AED ハートフルシートの設置連携(上富田町 75 カ所・白浜町 32 カ所等)、JR 天王寺駅天王寺 MIO に 24 個納品(和歌山県立熊野高等学校)
- 千葉県公衆浴場業生活衛生同業組合(千葉県立柏の葉高等学校)
- 東洋音響株式会社・ドローンショー開催のための機器操作やプログラム作成、株式会社天下一品・持ち帰りラーメン、杏仁豆腐のコラボレーションパッケージ製作(京都府立京都すばる高等学校)
- デジタル絵本制作:宇佐みんなのおうち、コープ、元編集長(大分県立情報科学高等学校)

- 株式会社ニッシリ(東奥学園高等学校)

#### (24)外部のコンテスト・競技会等への参加

各校が参加したコンテストや競技会として、以下のものが挙げられる。

- 異能 vation ジェネレーションアワード
- 東北農政局「ディスカバー農山漁村の宝」
- ISEF2025
- GLS2025
- 高校生ビジネスプラン・グランプリ
- 4DFF2025
- 全国高校生情報コンテスト
- 広島市・広島県児童生徒発明のくふう展
- 第 82 回科学作品展・科学体験発表会
- 第 64 回日本薬師会 中国四国支部学術会
- サイエンスメンタープログラム研究発表会
- 京都大学ポスターセッション 2025
- 山口大学 知財創造実践甲子園
- 福祉機器コンテスト
- 日本工業大学プロダクトデザインコンテスト
- Ene-1challengeSUZUKA KV-Moto 競技出場
- 秋田県立大学 スマホスタンドコンテスト
- ビジネス技術アイデアコンテスト
- 毎日 DAS デザインコンテスト
- 大阪成蹊大学アート&デザインコンテスト
- ウッドクラフト展
- ものデザインコンテスト
- 高校生椅子デザインコンテスト
- 全日本ロボット相撲大会中四国選手権大会
- 高校生ものづくりコンテスト全国大会
- 四国地区高校生溶接競技会
- ロボットアイデア甲子園
- エコデンレース全国大会
- 高校生技術・アイデアコンテスト全国大会
- 高等学校ロボット競技大会
- 鹿児島県探究コンテスト
- SDGs QUEST みらい甲子園
- おだわら若者応援コンペティション
- ビジネスアイデア甲子園
- 全国高等学校フードグランプリ
- クリエイティブコンテスト・ホームソーイング

- 高校生ボランティア・アワード 2025 サイネージ発表部門
- NICT 主催ネクストアントレプレナーズピッチ supported by スタートアップチャレンジ甲子園×高校生ビジネスプラン・グランプリ
- 第 15 回日本ジオパーク全国大会十勝岳大会口頭発表部門
- 高校生ビジネスプランコンテスト 関西 NBC B-hack High school2025 in 関西万博
- 第 14 回イオンエコワングランプリ
- 第 11 回元気わかやまビジネスプランコンテスト 実践・実行部門
- 第 13 回環境省 グッドライフアワード
- 第 15 回クボタ・毎日地球未来賞
- 令和7年度 1.17 防災未来賞ぼうさい甲子園
- Oita AI Challenge 2026
- 第 3 回高専起業家サミット
- 第 12 回マイナビキャリア甲子園

## 2-2-2. 新たに開発または導入した指導方法及び他校と連携した取組

新たに開発または導入した指導方法や学校間連携の実践に関して、参加校から以下のような事例が示されている。

### 新たに開発または導入した指導方法

- ビジネスアイデア起業シミュレーション、AIを活用したアイデア出し（札幌日本大学高等学校）
- デジタルコンテンツ制作実習における、プロジェクションマッピングコンテンツと生成AIを活用したチャットボット制作実習（宮城県松島高等学校）
- アイデア創出ワークショップ(SCAMPER 法)(東海大学附属高輪台高等学校・中等部 )
- 自作サイト:<https://yamashu00.github.io/>(知財を軸とした Unity ゲーム開発のために開発)  
知財図鑑:テクノロジーを活用して、新たなアイデアを創出するツール(生徒のアイデアブレストや発想の壁に当たった際)  
(聖学院中学校高等学校)
- 対抗される既製品2品を実際に用意し、生徒に比較調査させて、ポスターにまとめ発表させました。(東海大学附属相模高等学校)
- 本校マスコットキャラクターを用いた知財学習の動画(立花学園高等学校)
- 企業・研究機関研修(福井県立高志高等学校)
- メンタープログラム(徳島市立高等学校)
- 農業知財基礎セミナー(岐阜県立岐阜農林高等学校)
- KJ 法やブレインストーミングなどを活用した新レシピの考案、アイデアレシピの考案と PDCA サイクルによるブラッシュアップ(大阪府立農芸高等学校)
- 工業系生徒研究成果発表会に参加し、学習した知的財産について学習した内容について発表できる資料を作成した。(香川県立多度津高等学校)
- 昨年度に申請した内容に加えて、課題研究ではロボット製作、校内備品の改良などに取り組んだ。(開新高等学校)
- 生成 AI 講習会の初導入(大分県立大分工業高等学校)
- 大学教授 知財講習(大分県立鶴崎工業高等学校)
- 知財創造・紙タワー・TRIZ による問題解決(大分県立中津東高等学校)
- 実際に企業の担当者の方に来校していただき、商標登録、デザインについて講義していただいた。(宮城県南三陸高等学校)
- 生成 AI を活用した DX 知的財産教育学習(東京都立第五商業高等学校)
- キャリアから学ぶ知的財産に関するお仕事(コクヨ株式会社リスクマネジメント本部による講話)(大阪府立淀商業高等学校)
- 訪問先企業の新規開拓を行った。(兵庫県立香住高等学校)
- 商品開発に関する実践的な学習の一環として、長崎市視察研修を実施した。はじめに、長崎県庁や長崎駅かもめ市場、長崎市水産センターにおいて知的財産に関する講座を受講した。講師には、青森県でカキ養殖事業を立ち上げた起業家(水産高校出身)を迎え、特許や商標等の知的財産を活用することで、水産物の付加価値を高める取組について学んだ。(熊本県立天草拓心高等学校(マリン校舎))

### 第3節 学習用資料の活用状況

#### 2-3-1. 本年度参加校で使用されたテキスト等の種類と利用状況と指導効果

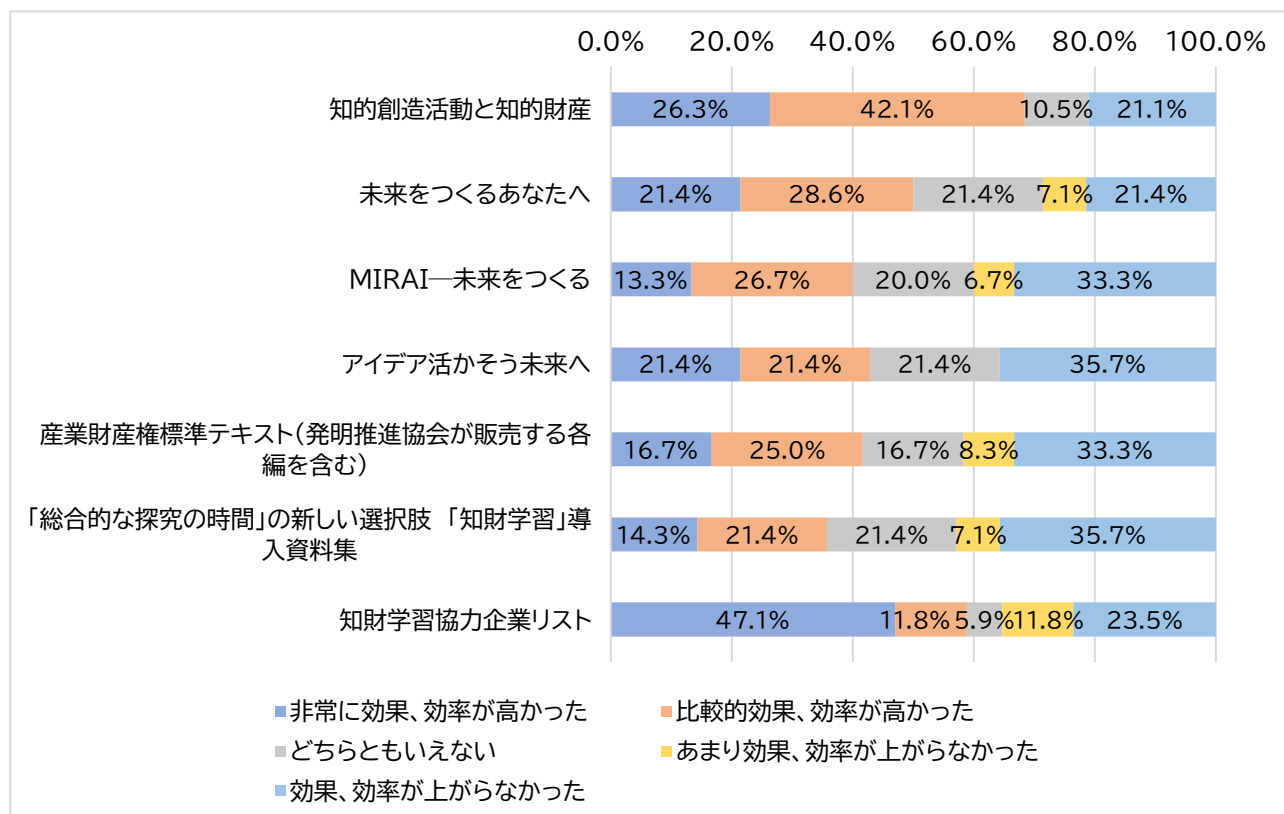
##### (1)使用されたテキスト等と学校区分による使用状況

参加校においては、「知的創造活動と知的財産」が多く活用されているが、その他のテキストについても活動内容に合わせて効果的に使用されている。また、本年度から導入された「知財学習協力企業リスト」については、導入校のうち47.1%が「非常に効果・効率が良かった」と回答しており、全体として高い評価を得ている。

表2-3-1 テキスト等の使用状況(令和7年度アンケートより)(単位:校)

項目	普通	農業	工業	商業	水産	家庭	情報	福祉	高専	全体
	(17校)	(6校)	(20校)	(10校)	(2校)	(2校)	(4校)	(2校)	(2校)	(65校)
知的創造活動と知的財産	7	2	7	2	0	1	0	0	0	19
	41%	33%	35%	20%	0%	50%	0%	0%	0%	29%
未来をつくるあなたへ	6	1	5	1	0	1	0	0	0	14
	35%	17%	25%	10%	0%	50%	0%	0%	0%	22%
MIRAI—未来をつくる	7	1	5	2	0	0	0	0	0	15
	41%	17%	25%	20%	0%	0%	0%	0%	0%	23%
アイデア活かそう未来へ	6	2	4	2	0	0	0	0	0	14
	35%	33%	20%	20%	0%	0%	0%	0%	0%	22%
産業財産権標準テキスト(発明推進協会が販売する各編を含む)	5	2	4	1	0	0	0	0	0	12
	29%	33%	20%	10%	0%	0%	0%	0%	0%	18%
「総合的な探究の時間」の新しい選択肢「知財学習」導入資料集	7	1	5	1	0	0	0	0	0	14
	41%	17%	25%	10%	0%	0%	0%	0%	0%	22%
知財学習協力企業リスト	7	1	6	2	1	0	0	0	0	17
	41%	17%	30%	20%	50%	0%	0%	0%	0%	26%

図2-3-2 テキスト等の指導効果【年間報告会時】(令和7年度アンケートより)



### 2-3-2. 補助学習用資料の活用法

年間アンケートや年間指導報告書によると、補助学習用資料については動画やWebサイトなどのデジタル教材の活用が多く、特に日本弁理士会公式チャンネルの「知的財産ってなんだろう」や中国経済産業局「もうけの花道」、INPITのIP ePlatなどのオンライン教材が多く挙げられている。加えて、『閃きの番人』や『14歳からの知的財産入門』、実教出版の工業・農業系教科書など書籍・冊子教材も併用されており、動画・Web教材を中心に書籍や学校独自のワークシートを組み合わせた多様な媒体が活用されている傾向が見られる。

### 2-3-3. 学習用資料の改良・新しい学習用資料の開発

教員が指導しながら新しい学習用資料を開発した事例や、学習用資料を改善した主な事例を以下にあげる。

#### 学習用資料の開発等

- 地元の資源を学習素材として捉え、RESASを活用した調査を実施し、ナイトタイムエコノミーの充実を図るデジタルコンテンツ製作を通して知的財産権を学習。(宮城県松島高等学校)
- 自作サイト:<https://yamashu00.github.io/>(知財を軸としたUnityゲーム開発のために開発)(聖学院中学校高等学校)
- クラスTシャツを作成する際に利用するGoogleレンズ使用の手引き(東海大学付属相模高等学校)
- 商標出願を前提にした知財学習(立花学園高等学校)

- Google ドキュメントやスライド, スプレッドシートなどを用いて授業資料を作成している。昨年度の反省を活かし, アイデア出し段階で知財権を意識できるよう J-PLATPAT などの検証用 URL を掲載するなど, 生徒が自ら知財権に関して調べられるよう, 情報提供を強化することを意識した。(学校法人鶴学園広島工業大学高等学校 全日制課程)
- 生徒に商標や意匠デザインを見せ、なぜこのような商品名やデザインが考案されたか、問を持たせるよう心掛けた。(熊本県立熊本農業高等学校)
- 各種指導用パワーポイントは、適宜改良中。デザインパテントコンテスト指導書も内容を一部変更。テスト用プリントは新たに作成。(山口県立徳山商工高等学校)
- 本校では、機械科の機械コースと造船コースの生徒を中心に知財学習を行っている。生徒が興味関心を持てる指導資料を改良している。例えば、マイコン実習における指導教材、溶接に関する水密装置(香川県立多度津高等学校)
- 山口大学のワークショップを参考に、NotebookLM を活用した情報整理・発想支援手法を導入。(熊本県立熊本工業高等学校)
- アイデアの発想法などを説明するための「授業スライド」を作成した。(大阪府立大阪ビジネスフロンティア高等学校)

## 第4節 学習用資料の活用状況

### 2-4-1. 知的財産委員会等の知財人材育成の推進組織の設置と活動

#### (1) 委員会の設置

知財マインドを持った人材の育成の取組は、特定の限られた教員のみでの活動では困難であり、参加校では校内に知的財産委員会などの委員会を設置して、組織的にその推進に当たるようになっている。

なお、現状の校内での推進委員会の設置状況は、表2-4-1のとおり、参加校の約30%に当たる19校に設置されている。そのうち、令和7年度に委員会を新規設置した学校は5校ある。

表2-4-1 校内推進委員会の設置年度(年間指導報告書より)(単位:校)

年度	R7	R6	R5	R4	R3	H27	未回答	未設置
合計 65校	5	4	4	1	1	1	3	46

#### (2) 推進委員会の体制

委員の人数については、表2-4-2に示すように、10~14人が最も多く、次いで7~9人が多いという結果となっている。この中には学校の管理職も委員として就任しているケースも複数校存在する。

表2-4-2 校内推進委員会の委員数(年間指導報告書より)(単位:校)

人数	3人以下	4~6人	7~9人	10~14人	15~19人	20人以上	未回答
合計 19校	0	2	5	6	3	2	1

また、実際に指導にあたる教員・教官の人数は、表2-4-3のとおりとなっている。

表2-4-3 知的財産指導教員の人数(年間指導報告書より)(単位:校)

人数	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人以上	教員 合計	1校あたり 平均人数
合計 65校	0	6	4	8	4	5	3	8	1	25	700	10.94人

## 2-4-2. 知的財産関連学校行事の実施

知的財産に関する学校行事の実施状況は表2-4-2に示している。

学校行事の中では、発表会や展示会(文化祭など)での取組が最も多く、さらには校内向けの講演会も校種を問わず幅広い学校で実施されていることが分かる。

表2-4-2 学校行事(年間指導報告書より)(単位:件)

行事	普通	農業	工業	商業	水産	家庭	情報	福祉	高専	全体
a)校内向けの講演会	13	3	11	0	1	1	0	0	2	18
b)企業・機関・税関等への訪問学習	5	0	3	1	1	0	0	0	0	10
c)発表会・展示会(文化祭等)	15	2	7	1	1	1	0	0	0	27
d)アイデアコンテスト(パテントコンテスト等)	2	1	4	3	0	0	0	0	0	10
e)商品販売実習	0	0	1	3	0	1	0	0	0	5
f)対外的に開かれたセミナー	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
g)職員向けの研修・セミナー	3	1	4	1	0	0	0	0	0	9
h)生徒自身による児童・生徒への知的財産指導	1	0	1	2	0	0	0	0	0	4